発表 No.実６　　**実践発表**

スクールデー実践Cで何を学んだか
—「求められる具体的な力」に基づいて—

河野俊之　（横浜国立大学）

１．はじめに

発表者は勤務校で教師養成に携わっている。本教育学部では小学校教諭一種免許状取得が卒業要件である。それに加え、国語、英語専門領域などは各教科の中学校教諭一種免許状取得、特別支援教育専門領域は特別教育支援学校教諭一種免許状取得が卒業要件である。日本語教育専門領域では、いわゆる日本語教育副専攻の所定の単位を修得することが卒業要件である。

「スクールデー実践」は本学部において教育現場に赴く授業の一つである。本学部において主に教育現場に赴く科目は表１の通りである。なお、「学・領」は、学部全体の科目か領域の科目かを表す。

表１　本学部における教育現場に赴く授業

年次等	科目名等	学・領	内容
１年秋	教育実地研究	学部	小学校、日本語学校等で見学
２年秋	スクールデー実践 C	学部	（国際教室のある）小学校でサポート
３年春	日本語インターン A	領域	国際教室のある小学校でサポート
３年春	日本語インターン B	領域	（オンラインで）成人をサポート
３年春	小学校教育実習	学部	小学校教員免許のための教育実習
４年春	日本語教育実習 A（年少者）	領域	小学校国際教室で実習
４年秋	日本語教育実習 B（成人）	領域	技能実習生に対する実習

「スクールデー実践 C」は、2 年次秋学期に、「子どもとのかかわりをテーマに、アシスタントティーチャーとして毎週、学校現場での授業支援等に取り組む」ものである。初めて学生一人で教育現場を訪問し、さまざまなことを学ぶ。そこで何を学んだか、また、今後何を学ぶべきかを明らかにすることを本研究の目的とする。それにより、実地と密につなぐことで、座学など他の授業の内容や方法を見直すことができる。また、今後学ぶべきことを自覚することで、自律学習を促すことができる。これらにより、学校教員養成、日本語教師養成、外国人児童生徒を指導する教員の養成のためのカリキュラムの向上に貢献できると考える。

２．方法

本年度、日本語教育専門領域の２年次生は５名であった。それぞれ、日本語指導が必要な児童が多い学校に入っており、取り出し指導、入り込み指導、在籍学級のサポートのほか、宿泊体験学習、遠足のサポート等もあった。また、教員の指導のサポートを行う場合と、指導を任される場合とがあった。学生には毎回、日誌を記し、授業支援システムを通して提出することを求めた。その際、「新しく学んだこと」と「新しく学ぶべきこと」を日本語教育学会(2020)で示されている「求められる具体的な力」に対応して記入させた。「求められる具体的な力」は外国人児童生徒等を担う教員の資質能力が具体的な実践場面においてどのような力として発揮させるかを示したものである。

３．結果と考察

表２に、すべての回について提出した学生 A、B、C の３名が記入した「新しく学んだこと」と「新しく学ぶべきこと」を示す。これを見ると、以下のことが分かる。

当然だが、「コ　第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。」「サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。」等の「日本語・教科の力の育成」が多い。また、「エ　認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮してとらえることができる。」等の「子どもの実態の把握」も多い。これらから、各教科について単元のつながりを理解し、各学年で未習・既習項目が何であるかを知り、実際に目の前の児童生徒等が何を身に付けているかを把握する方法を習得することが重要であると考えられる。また、これは、本専門領域の学生が本来、得意とするべきことであると考える。

「フ 外国人児童生徒等の教育を通して、自身のものの見方を批判的に問い直すことができる。」等、「教師としての成長」はあまりない。しかし、「マ　外国人児童生徒等教育の経験を、自身の教師としての成長として意味づけることができる。」等について言及するようになっている。初めて一人で教育現場を訪問して間もない時期に、今後自身が学ぶべきことが明確になっていると言える。今後、教育現場でさらに学ぶことで、より明確になってくると考えられる。

今後、本研究の結果以外に、他の授業についても振り返りを行い、それらを元にして、より効果的なコーチングを行うことや他の座学及び実地の授業の内容や方法を見直すことを考えていきたい。

表２　「新しく学んだこと」と「新しく学ぶべきこと」

資質・能力の４要素	課題領域	求められる具体的な力	
		新しく学んだこと	新しく学ぶべきこと
捉える力	子どもの実態の把握	A:イウエ B:エ C:イウ	A:エ　B:ア　C:ア
	社会的背景の理解	A:φ　B:φ　C:φ	A:φ　B:キ　C:カ
育む力	日本語・教科の力の育成	A:コサス　B:コサセ C:ケサス	A:コサシス　B:φ C:ケサシ
	異文化間能力の涵養	A:タ　B:チ　C:φ	A:ソ　B:ソタ
つなぐ力	学校づくり	A:φ　B:テナ　C:φ	A:φ　B:φ　C:φ
	地域づくり	A:φ　B:φ　C:φ	A:φ　B:φ　C:φ
変える／変わる力	多文化共生社会の実現	A:φ　B:φ　C:φ	A:φ　B:ヒ　C:φ
	教師としての成長	A:φ　B:ホマ　C:マ	A φ　B:φ　C:フ

【引用文献】

河野俊之（2009）「日本語教師養成のための実習―実習とほかの授業との連携―」河野俊之・金田智子編『日本語教育の過去・現在・未来　第２巻　教師』凡人社、pp.64-84

公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』https://mo-mo-pro.com/report（2024 年 2 月 20 日閲覧）

横浜国立大学（2023）「スクールデー実践 C」https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/gakumu_portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2023&lct_cd=7000008&je_cd=1（2024 年 2 月 20 日閲覧）